

・青木雅（埼玉県）

風船がはじけて空に色めいて
思考のすごいやつすぎゆく

風船は破裂した。いま空を渡ってゆくのは破裂した風船の色彩の残像。思考のほんとうにすごいやつは、思考が破裂してはじめてやってくる。

・折田 日々希（神奈川県）

蛇に舌 僕に恋人

イヤホンが

ポケットの中で大変になる

蛇が舌をちろちろさせていて、僕には恋人がいる。そしてイヤホンはポケットの闇のなかでこんがらがっている。すべて正常運転で。

・山本先生（東京都）

去年今年充電器にもある個性

「貫く棒の如きもの」ではなく。人の数よりも充電器のほうが多いのだから、個性だってある。何本ものコードが去年から今年へまたがり、つながる。

・夏原（神奈川県）

不自由を

滑車で走らせ

暖をとる

自由よりも不自由には重量や質量があるぶん、摩擦が起こる。滑車の車輪から飛び散る不自由の火花。それは古代から人間を生き延びさせてきた火だ。

・吉沢 美香（宮城県）

見えずらいもの増えてきて

蜜柑揉む

一年の終わりに近づくとふいに世界が見えなくなる気がする。街に人が溢れ、一年間を振り返る映像が溢れる。冬の蜜柑という時間を揉みながら。

・マズルカ（山口県）

えりんぎのんぎのどこまで

噛み締めてそれから指輪を

買ってください

えりんぎの「んぎ」の歯触り。あの独特のしろい弾力のやさしい不安感。見えないなにかを約束する指輪を買ってもらって、それから。

・村上 すう（京都府）

春巻の中身見る

そういえば雪が降っている

春巻が包んでいる中身は、春巻を食べないと見ることができない。そういえば、というくらいに忘れていても雪はずっとそこに見えている。

・小川いなせ（神奈川県）

肌色はおれの肌の色ですからね

見るたび思い出してください

「うすだいたい」に変わった「肌色」。肌色にはこの色という決まりがないから。だったら、きみにとっての肌色はたったひとりのおれの肌の色に決まってる。

・西橋間 端新（東京都）

牡牛座が本気になったら

自分さえ殺せそうだと

姉を見て 冬

空に礫にされている牡牛座。彼は海を渡る途中で、その下半身は地中海の中だという。本気になったときに出現するだろう冬の全身が二人を震わせる。

・つけ麺（千葉県）

物体呼ばわり

ものとして認知しうる対象物、すなわち物体。そのひとにとってそれはものとしてしか認知されていないということ。それをよしとするか否か。